

F-35Bの配備について

■受け入れの判断・回答

12月20日、市議会本会議（12月定例会）で、福田良彦市長が、留保していたF-35Bの配備の「受け入れ」の判断について市の対応を報告しました。

まず、経緯について、配備に関しては11月2日に「承認する」考えを示し、県や関係自治体との協議で「受け入れる」こととしましたが、10月27日に発生した事故の情報提供を受け、判断を留保した旨、説明しました。

その上で、11月29日に国が「安全性に問題はない」旨説明していることや12月16日の市議会全員協議会の質疑などを踏まえ、安全性



▲米国アリゾナ州のユマ基地を視察
(写真提供 米海兵隊)



▲ユマ基地に配備されているF-35B



▲全員協議会で発言する岸外務副大臣



▲稲田防衛大臣へ地元の考えを伝える

についてあらためて検証した結果、「留保していた判断については解除し、配備を了承することとしたい」との考えを述べました。

しかしながら、その間、ホーネットやオスプレイなど、米軍機の重大事故が相次いで発生したこと、また、議員からの「慎重に対応すべき」「配備の容認は時期尚早ではないか」などの意見を踏まえ、「安心・安全対策等、実効性のあ

る対応を国が示すことを条件としたい」旨、述べました。

翌日、12月21日、福田市長は村岡県知事と共に上京し、岸外務副大臣および稲田防衛大臣に地元の考えを伝えるとともに、安心・安

全対策等について特段の措置を講じるよう要請しました。

これに対し「しっかりと対応したい。市からの要望の実現に向けて努力する」旨回答があり、外務副大臣および防衛大臣から実現に向けての力強い言葉が得られたことから、F-35Bの配備について「了承する」こととしました。

なおF-35Bは、平成29年1月、FA-18ホーネット12機の機種変更として10機、また同年8月、AV-8Bハリアー8機の機種変更として6機の計16機が岩国飛行場へ配備されることが昨年8月22日に国から説明されています。

■これまでの経緯

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 8月22日 | 外務・防衛両大臣政務官が市役所を訪れ岩国飛行場への配備について説明 | 11月29日 | 外務副大臣・防衛大臣政務官が市役所を訪れ10月27日の事故について説明 |
| 9月27日 | 市議会全員協議会で防衛大臣政務官他が配備について説明 | 12月16日 | 市議会全員協議会で外務副大臣・防衛大臣政務官が10月27日の事故について説明 |
| 10月24日 | 福田市長がユマ基地を視察 | 12月19日 | 岩国基地司令官、F-35Bのパイロットが市役所を訪れ、F-35Bの事故についての情報提供がある |
| 11月2日 | 市議会全員協議会で福田市長が配備について「承認する」考えを示す | 12月20日 | 市議会本会議で福田市長が留保していた判断について、「条件付で了承したい」との考えを示す |
| 11月8日 | 県と関係自治体の協議で配備を「受け入れる」こととする
協議後、10月27日に米国で発生したF-35Bの事故に関する情報提供がある | 12月21日 | 外務副大臣・防衛大臣に「了承する」ことを伝える |
| 11月9日 | 事故を受け、「受け入れ」の判断を留保する | | |